

「惑星」

指揮・山岡重信 (客演)
合唱・新星日響合唱団 (合唱指揮・郡司博)

近衛秀磨・越天楽
Hidemaro Konoe Etenraku

ブラームス・交響曲第3番へ長調作品90
Johanes BRAHMS Synphonie no.3 E-maj op.90

ホルスト・組曲「惑星」作品32
Gustav HOLST Suite "The Planets" op.32

1985年1月27日(日) 午後2時

新宿文化センター

新交響楽団

第106回演奏会

S・一八〇〇円／A・一三〇〇円／自由・八〇〇円 お問合わせ・予約コンサートサービス

お問合わせ・予約コンサートサービス TEL 〇三(二)六六三三三八五八



主催＝新交響楽団

新響106回演奏会の御案内

新響と山岡先生の協演は、96回（田園、オケコン）以来2年半振りです。それまでも92回（ブルックナー7番 他）、89回（ブラームス1番、春の祭典）等でも客演していただき、オケと一体になって共鳴するような指揮は団員の記憶に新しいものです。さて、今回は「名曲シリーズ」として 惑星 をとりあげます。新響通、の近藤氏によれば、「とにかく出かけてみよう」とのこと、是非足をお運び下さい。

新響の演奏会は……

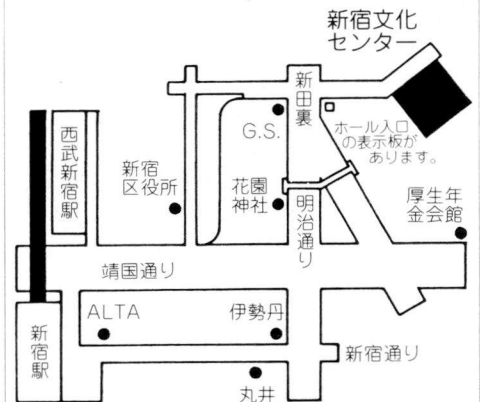
新響は面妖なオーケストラで、数度に一回、しかもあまり期待していない演奏会で、びっくりするような演奏——名演とはいえないが、熱演、快演——をすることがある。ところが、ある程度の演奏を期待していると、メチャクチャ、なんてことがこのオケの特色のようだ。前回の山岡さんとの演奏会は、この特長どおりの結果となってしまったから、今回はぜんぜん期待しないで聴きに行ってみよう。越天楽、ブラ3、惑星のプロは、いささか重すぎて聴き疲れがしそうだけど、いずれも山岡さんの得意のレパートリーだから、巧みなたづなさばきで、新響という面妖馬を疾走させてくれることだろう。

いや、こんな期待もたないほうが良いかもしれない。そして、とにかく出掛けてみよう。

（音楽評論家 近藤滋郎）

★会場のご案内

新宿区立 新宿文化センター
新宿区新宿6-14-1



●新宿駅東口より徒歩13分

世界が「うまい」と言い始めた。

- 「生の時代、サッポロの時代」日本に生ビールの時代をつかったサッポロの生は、いま世界でも大評判。
- うまさの秘密は独自のセラミック濾過。ここアメリカ西海岸でも「クリーン・テイストだ！」とファン急増中。
- どこでも人気でフレッシュローテーション。いつも変らぬうまさです。

大びん633ml/中びん500ml/小びん334ml